

H30.1.29 第3回ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会

資料1

(出席者)※委員(代理出席含む)のみ

【学 識】 中村教授(協議会会長)(日本大学工学部)、岩城教授(日本大学工学部)

【産業界】 小野会長(協議会副会長)((一社)福島県建設産業団体連合会)、鈴木専務理事((一社)福島県建設業協会)、木町副会長((一社)福島県測量設計業協会)、相良会長(福島県法面保護協会)、佐藤会長((一社)福島県地質調査業協会、畠支部長((公社)日本技術士会東北本部福島県支部)、長谷川会長(福島県土木施工管理技士会)、伊藤専務理事((一財)ふくしま市町村支援機構)

【官公庁】 本木副所長(国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所)、大河原部長(協議会副会長)(福島県土木部)

※委員総数13名のうち、代理出席を含め12名の出席



【会長挨拶】

中村教授：昨年の今頃はまだ準備段階であったが、1年弱の間で協議会設立から第1回ふくしまME基礎コースの認定者が輩出できるまで至ったことに感謝を申し上げたい。これも関係機関の皆様から育成講座への講師派遣や技術者育成の枠組み作成において御協力を賜った結果であり、まさに産官学連携の良いところが発揮できていると思っている。引き続き、次のステージに向けてしっかりと取り組んでいきたい。

【会議結果】

- (1)「平成29年度第1回ふくしまME基礎コース」の受講者数やスケジュールの変更等(資料1～4)は、幹事会または審査委員会の決議により実施した旨を報告した。
- (2)「受講者へのアンケート調査」(資料5)や「産業界へのメンテナンス技術者育成に関する意向調査結果」(資料6)の報告があり、協議会の対応として高いモチベーションを持って受講するような仕組みや、ふくしまMEの育成方法の見える化をし、対外的に説明していく必要があると認識した。
- (3)「ふくしまMEコースの内容及び受講要件(案)」(資料7関係)は、ME技術者の育成レベル(資料7-1)やMEコースの受講要件の枠組み(資料7-4, 5)は承認された。なお、以下の4項目については再度検討し、次回以降の協議会で議論することとした。
 - ①MMRの具体的な役割(資料7-1, 2, 4, 5)、
 - ②ふくしまMEが目指すレベルの既存資格の詳細整理(資料7-2)、
 - ③基礎コースが一部免除となる既存資格と基礎コースの必須科目の設定(資料7-4, 5)、
 - ④MEコースの詳細項目の設定(資料7-7)
- (4)「平成30年度のスケジュール(案)」(資料8)は、基礎コースを2回実施した後に、MEコース(防災、保全)を各1回実施することで承認された。また、技術者のポトムアップを目的とした協議会主催による講習会開催についても、検討を始めることとした。
- (5)「平成29年度第1回ふくしまME基礎コース認定者」については、110名の認定を決定した。

【委員発言】

岩城教授：MEコースの分野設定は、防災を偶発的な要因による変状、保全を経時的な変状という大枠で整理し、特定分野によらず一般的な事項を網羅できるようにしたほうが良いと考える。また、下水道などの特異な分野は個別に考えていけば良い。耐震診断は今後検討したい。

鈴木専務理事：マネジメント技術者のあり方については更に議論していかなくてはならない。

畠支部長：基礎コースは若い技術者が受講して、その後現場経験を積むことが目的であるため、基礎コースが一部免除となる既存資格を特定し、特定資格の取得者へはMEコースの受講を促すことが必要である。そうすることで、若い技術者が受講できる機会が増えると考えられる。

大河原部長：特定資格の取得者が受講する基礎コースの必須科目や実施方法については、MEコースの受講に配慮して設定する必要がある。